

令和2年度大阪府立吹田東高等学校

第1回学校運営協議会

日時：令和2年7月16日（木）～8月12日（水）

場所：書面開催

・委員	浦田 太	吹田市立千里丘中学校 校長
	藤浦 雅彦	吹田東高等学校 後援会会長
	城下 英行	関西大学社会安全学部准教授
	柏渕 眞理子	東山田青少年対策委員会委員長
	古川 益美	吹田東高等学校 PTA会長
	竹岡 富美男	さくら北浜法律事務所 弁護士

校長	東 知佐子	吹田東高等学校 校長
事務局	井川 紀代子	吹田東高等学校 教頭
	芝野 雅人	吹田東高等学校 事務長
	村上 明弘	吹田東高等学校 首席
	山室 裕	吹田東高等学校 首席

【あいさつ】 「大阪府立吹田東高等学校 校長 東 知佐子」

【実施要項等の確認】 (資料①参照)

【会長・副会長選出】

会長 浦田 太 (千里丘中学校校長)
副会長 藤浦 雅彦 (吹田東高校後援会会長)

実施要項等の確認、会長・副会長選出は書面決議にて承認されました。

【議 事】

◆報告事項

(1) 平成31年度学校経営計画及び学校評価について 【資料②】

資料にて提示

<委員からの意見>

- 【1】 授業以外の学習時間1時間以上の生徒の目標に対する達成率が残念。コロナの影響で新しい学習スタイルの導入など、自己管理の上で学習する力も必要になってくるのではないかと。
- 【2】 シラバスは以前より活用されているかと思うがまだまだか。
- 【3】 遅刻する子が少ないのは素晴らしい。自転車マナーは少し元に戻ってしまったのでは。
- 【4】 平成31年度も多くの項目で目標が達成されており、素晴らしい。
- 【5】 進路ガイダンスが好評なことは重要であると思う。校舎が新しくなって受験率もレベルも上がってきていると思うので、更なる有名校合格率などの高みを目指して頑張りたい。
- 【6】 青葉丘セミナーやS講座などの独自の取組がうまくいっているようなので結果に繋がって欲しい。
- 【7】 歯科の検診結果の追跡指導を年7回以上行っていることを高く評価する。

<校長より>

- 【1】【2】授業以外の学習時間の増加、シラバスの活用については、今後も取り組みを強化していく。
- 【3】遅刻は生徒指導の取り組みが功を奏している。自転車マナーについても取り組んでいきたい。
- 【5】【6】進路ガイダンス、青葉丘セミナー、S講座については、「生徒本人の希望する進路を実現する」という目標に繋がるようやっていく。
- 【7】歯科の検診結果の追跡指導は、臨時休業が長引いたこともあり、「3回以上」に下方修正している。

(2) 進路状況について (資料③参照)

資料にて提示 下記まとめより抜粋

- 1：4年制大学進学者の実数は過去4年間210名以上をキープしている。(40期生は9クラスのため単純比較せず)
- 2：短大の実数もほぼ横ばいである一方、専門学校の数に増加傾向が見られる。
- 3：4年制大学合格者の内訳を見ると、関関同立・産近甲龍の主要8大学の延べ数は減少しているが、大学入学定員の厳格化の影響を受けている中において、よく健闘しているものと考えられる。
- 4：令和2年度入試においては、国公立大学に3名(現役2名：大阪府立大学、京都市立芸術大、浪人1名：広島大学)の合格者を輩出した。
- 5：医療看護系進学者は約30名で、医療看護系希望者の放課後講習の成果が現われている。
- 6：就職・公務員は10名以下であるものの毎年一定数のニーズがあり、きめ細かな進路指導を継続している。

<委員からの意見>

- 【1】大学入試が変わりつつある中で、進路担当の先生を中心に機会のあるごとに、情報提供やガイダンスなどよくやっている。生徒達も良く健闘されていると思う。
- 【2】医療看護系など専門学校進学が多いのは世相を反映しているように思う。その分関関同立など主要8大学が減っており、生徒の考え方が堅実になっているのか。

<校長より>

- 【2】大学入学定員の厳格化の影響も大きいですが、将来の仕事と直結して進路を考える生徒が増えている傾向にある。

(3) 新入生アンケート結果について (資料④参照)

資料にて提示 下記まとめより抜粋

- 1：全体としては数年大きな変化は無く、同じような傾向。
- 2：休校期間の連絡をホームページで行っていたため、ほとんどの生徒が「ホームページを見たことがある」と答えている。
- 3：新校舎の影響による回答として、「吹田東が第一希望」という生徒の増加や「受験する上で重視した理由」に新校舎をあげる生徒が多かった。また、その影響なのか「厳しい学校だと聞いていた」という回答が例年より減少した。
- 4：長期の休校期間の影響か、「充実した高校生活」を期待している生徒の回答が増加している。

<委員からの意見>

- 【1】第1志望が77.1というのは嬉しい数値。新校舎が中学生に意識されている。
- 【2】希望進路が未定の生徒が多いが、高校生活でいろいろ考え、経験してみつけてほしい。
- 【3】新校舎の影響が色濃く出て、受験第一希望が例年を大きく上回っている。
- 【4】高校生活で期待する事の上位は学校行事、友人関係、充実した高校生活であるが、新しい生活スタイルで、これまでとは変わることも出てくるのでは。是非工夫をこらして充実した高校生活を送って頂きたい。
- 【5】英語が苦手な生徒が依然多い。
- 【6】吹田東高校が第一希望であった新入生の割合が年々増えていることは、とても素晴らしいことである。

<校長より>

- 【1】【2】【3】【4】【6】新校舎設立の追い風をうけ、本校を第一志望にする生徒が増加していることは喜ばしいこと。期待に応えられるようにしっかりとやっていきたい。
- 【5】英語に関して、本校は授業内のペアワークやグループワークを多用しており、英語の時間を楽しいと思わせ苦手意識を取り除くところから取り組んでいる。

- (4) 令和3年度教科書選定について (資料⑤参照)
資料にて提示

<委員からの意見>
特になし

- (5) 令和2年度学校経営計画について (資料⑥参照)
資料にて提示

<委員からの意見>

- 【1】今年にはコロナの影響で例年とは異なることも多く、教員への負担も大きいのでは？地域で手伝えることがあれば声をかけてほしい。
- 【2】授業時間の確保のため、様々な行事が取り止めや合理化されているが、そうした中での生徒たちが充実した高校生活が送れるように工夫をお願いしたい。
- 【3】働き方改革については、ICT化の問題など現場は大変な中、改善は難しそう。今年から、コロナ対策など更に雑用が増え、業務は減らないと思うが、頑張ってもらいたい。
- 【4】他の高校で生徒が感染して臨時休校となっている学校も出てきている。学校内での感染拡大が起これば臨時休校が伸びているようだ。更なる感染対策をお願いしたい。
- 【5】進学実績に関する数値目標の設定に関して、進路実現率の定義は何か。
- 【6】成果指標となる具体的な数字が記載され、委員にとって分かりやすい資料となっている。
- 【7】変更点中(2)(3)中期目標は特に賛成。
- 【8】目指す学校の冒頭「違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ」のフレーズは意図は良くわかるが、格差社会で競争社会の現実の中で、なぜ違いを認めることが有益なのか、生徒大人にも分かりにくいのでは。

<校長より>

- 【1】【3】今年にはコロナの影響で教員の負担が増えていることは事実。お気遣いいただき、大変感謝。オンライン授業や校舎内の消毒など、昨年までなかった業務も増えているが、一部教員に負担が偏らないよう留意しながら対応している。
- 【2】コロナの影響で行事の取り止めや縮小化を行っている。ただし、ただ止める・縮小するのではなく、体育祭と文化祭の要素を兼ね合わせた「青葉祭」を9月に開催するなど、行事を通した生徒の育成が図れるように工夫している。
- 【4】感染症対策については、生徒への指導も含め、しっかりとやっていく。
- 【5】「進路実現率」は本人が満足する進路に進めたか否かを調査する予定。
- 【8】大阪府は人権教育に力を入れていますが、その中でも「多様性の尊重」＝「違いを認め合う」ことの重要性が説かれており、また、ICT化やAIの登場により世の中のスピードがさらに早まり「競争」ではなく「共創」でないと追いつかない時代がやってきていると認識している。「違いを認め合う」ことの有益性については上記観点からも説明していきたいと考えている。

- (6) 臨時休業中のオンライン配信について (資料⑦参照)
資料にて提示 下記まとめより抜粋

1：さらなる休校延長が決定した5月のゴールデンウィーク明けより、本校教員自作の動画の配信や、推

奨める動画の紹介をし、課題の解説や自宅学習の補足とすることで、教育活動を補填してきた。

- 2：休校期間中、教員自作動画 115 本、推薦動画紹介 45 本と計 160 本の動画を使用して教育活動を補填。
- 3：動画の長さは 10 分程度を目安とし、週に 1 度月曜日にまとめて今週分を配信することで、生徒が 1 週間の中で自らペースを作って学習するように配慮した。
- 4：教科面だけでなく、生活面や進路の動画も作成し、視聴を促した。

<委員からの意見>

- 【1】すべての生徒が同じ条件でオンライン授業ができるとよい。
- 【2】オンライン授業に関して、高校の取組の方が進んでいる部分が多いと思うため、中高の教職員が共に研修できる場があれば良い。(現在の感染状況では、多くの人が集まる研修は難しいかもしれないが)
- 【3】教材の質の検証には触れられていないが、質の差があると思われる。
- 【4】今後の双方向オンライン授業のガイドラインにおいて、生徒の顔出しが必須というのは、個人的に疑問がある。
- 【5】本当に、大変だったことと思う。子どもたちのために、ありがとうございます。
- 【6】今後の緊急事態に備えてのオンライン配信などは、どのように準備されているのか。
- 【7】大学でもオンラインでの講義を実施しており、学生の意見では、必ずしも双方向授業だけが高評価とは言えず、動画のオンデマンド配信も評価が高いようである。後者は、巻き戻しや一時停止等ができ、自分のペースで学習できることが評価につながっている。メディアの特性を生かしたオンライン授業とされることを期待している。
- 【8】作成する教諭のスキルを高めることが、分かりやすい動画やオンライン授業に繋がるため、各自のご努力に期待したい。

<校長より>

- 【1】端末を保持していない生徒については、次回以降は学校から貸し出すことで対応する。
- 【2】中高の教職員が共に研修できる場については、高校側もありがたい。ぜひ一緒にやらせていただきたい。
- 【3】【8】教材の質の検証は今後の課題。生徒ヒアリングでは、教員自作動画の方が好評であったが、「質」より「親しみやすさ」が要因であるように思われる。そういった観点からも教員のスキル向上は学校全体で取り組んでいきたい。
- 【4】臨時休業中に一部、同時双方向オンライン授業を行ったが、生徒側が映像をオフにした場合に、授業としての成立が難しいことを実感したため、「同時双方向型」で行う場合は、生徒の反応が見える顔出し必須で行うことを考えている。
- 【6】今後緊急事態で休校になった場合は、G Suite for Education を使用し、時間割通りに課題や動画を配信することを考えている。既に各授業のオンライン上のクラスルームは作成し、生徒にはクラスコード一覧を配付済み。
- 【7】本校でも巻き戻しや一時停止ができる動画のオンデマンド配信は評価が高かった。授業時間の短縮、学習効果の向上にも有効であるという声もあり、今後検証していきたい。

【諸連絡】

次回 令和2年度第2回学校運営協議会 11月上旬～12月初旬 (予定)